

犠牲になられた方々へ深く哀悼の意を表するとともに
被災されている皆様へ、支援が行き届きますよう祈念します。

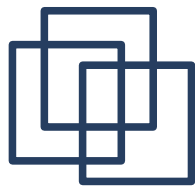
令和6年能登半島地震—地盤災害— 調査内容と大学での学び(速報版)

金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 高原利幸

公益社団法人地盤工学会 地震調査団メンバー

1月1日の発災直後から北陸支部の会員で連絡を取り、新潟、富山、石川で独自に調査を始める。

行政でも被害状況の取り纏めは行うが、当然のこととして救助・支援が優先される。しかし、災害の発生原因がわからないと、技術の向上が妨げられてしまうため、学会所属の研究者(民間企業を含む)が独自に、発災直後の様子を記録する必要がある。



宅地盛土の被害

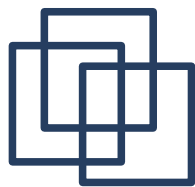
- 2004年中越地震, 2011年東北地方太平洋沖地震などでも「盛土」と呼ばれる土地が崩壊する事例が相次ぐ。
 - 国土交通省も大規模盛土の点検を指示している。



中越地震(長岡の被害)

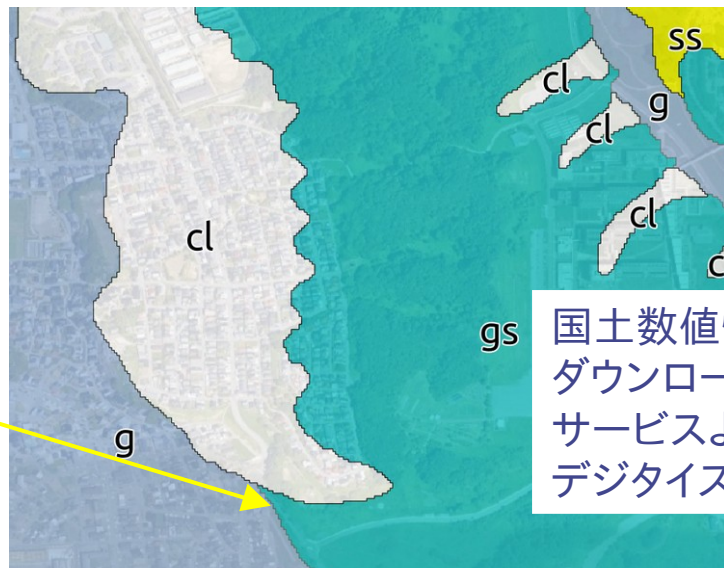
東日本大震災(福島 of 被害)





令和6年能登半島地震

• 金沢市の宅地盛土も被害



古い航空写真や地質図から土地の状態を調べる。

もともと丘陵が崩れた碎屑(碎屑)と呼ばれる土地を造成し、盛土した部分が崩壊したことが分かる。

測量学, 空間情報工学, 土質力学, 地盤工学などでこれらの基礎を学ぶ